

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

ユニプレスモールド 株式会社 広島工場

(2) 事業所の所在地

東広島市高屋台1-11-40

(3) 業種

自動車部分品・付属品製造業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成30(2018)年度を基準年度とし、令和4(2022)年度から令和6(2024)年度までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向

《環境方針》

当社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、すべての事業活動を通じて環境への影響に配慮し行動します。そして、豊かな社会、美しい環境を次世代に継承するため、次の活動を推進します。

1. 当社の事業活動である自動車車体用内外装樹脂部品の生産に関わるすべての事業活動を通じて、環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で環境目標及び環境マネジメントシステムを設定します。又、これらを必要に応じて見直し、継続的改善を図ります。
2. 環境に関する法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の事業活動が環境に与える影響の中で、次の項目を重点テーマとして汚染の予防に取り組みます。
 - ①省エネルギー、省資源に努めます。
 - ②材料の再利用及び再生材を活用し、廃棄物の低減に努めます。
4. この環境方針は、ポスター又はカード等を通じて当社の従業員に伝達し、顧客に対しても、パンフレット等で入手可能とします。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成30 (2018) 年度	令和 () 年度
二酸化炭素	2,674	

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 () 年度	令和 () 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 () 年度	令和 () 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2				0
非エネルギー起源CO2				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 平成30 (2018) 年度			原単位 削減目標	目標年度 令和6 (2024) 年度		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	2,674	6,443,042	0.000415	3.0	2,415	6,000,000	0.000403
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	1,992.00	3.0	-	-	1,933.00
目標設定の考え方	年間1%の削減を目標として3年計画で3%の削減率を設定しました。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減	年間1%削減 (製品1個当り電気使用量)	1-1 不要照明の消灯（特に工場内LED照明）の励行（始業時の監督者チェック実施） 1-2 未使用設備機器の電源オフ徹底（特にプレス機、コンプレッサ、粉砕機等大型設備は徹底する） 1-3 節電担当エリアの設定による節電管理の実施（部署毎のエリア決めによる管理の細分化） 1-4 設備アセスメント実施による省エネ評価及び設備更新時（新規導入含む）の省エネ化推進 1-5 設備関係省エネ化改善の実施（全社活動） 1-6 室内温度設定基準による空調設備（冷暖房）の管理（室内温度：夏28℃以上、冬20℃以下） 1-7 デマンド管理の実施・・・デマンド値の現場見える化実施によるデマンドオーバー時の迅速な対応 1-8 工場内暑さ対策実施による冷房機器の使用削減（第一工場送排風機設置による工場内温度減） 1-9 事務棟・出荷場照明LED化、会議室エアコン更新（水銀に関する水俣条約、フロン排出抑制法対応）
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

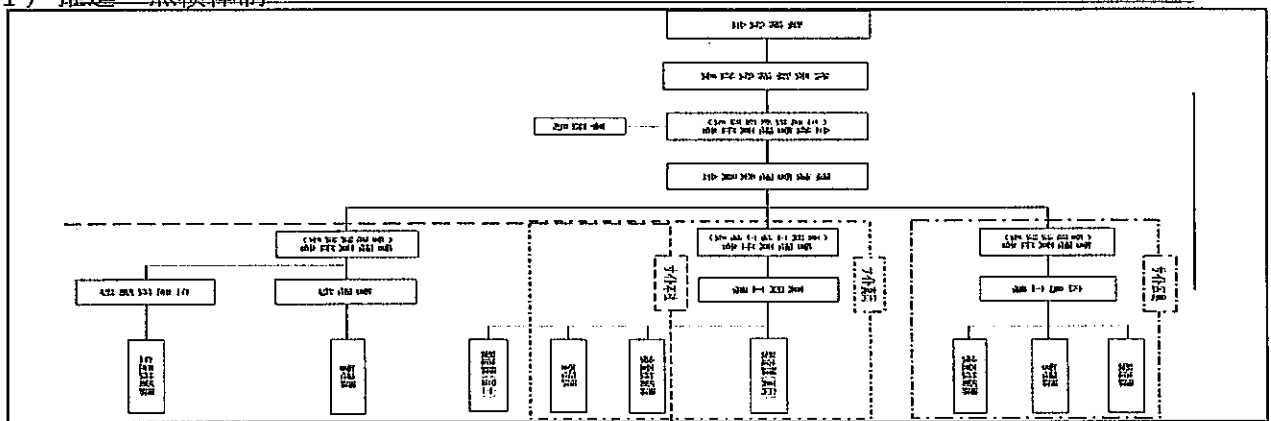
○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

環境管理責任者を中心に、毎月開催される環境管理委員会にて取組み状況を把握・点検及び問題点の検討を行い継続的な向上を図る。

(3) 計画書等の公表

事務所・食堂に備付け
計画内容及び進捗状況が閲覧出来る様にする。